

## 演習科目

### 制作基礎

## Production Technique Foundations

担当: 小林孝浩、萩原健一、会田大也(非常勤)、小林茂、ジダーノワ、山田晃嗣、木村悟之(非常勤)、飛谷謙介、鈴木悦久、木村悟之(非常勤)、瀬川晃、菅美花、赤羽亨、鈴木宣也、椋木新(非常勤)、廣瀬周二(非常勤)		
単位: 2単位	履修対象: 1年	教室: 別途配布資料参照
学期: 前期	実施方法: 対面・オンライン	

### 科目のねらい・特色

プロジェクト実習や個人制作を行うにあたり、表現の基礎となる実践的なスキルの修得と同時に、表現の応用となる先進的な加工装置等についての演習オムニバス形式の科目です。現代社会における問題の発見や解決方法の演習を通じて、専門性に自足することのない複眼的な視野、および実践的関心を基盤とする理論形成能力の育成を目指します。

### 到達目標

プロジェクト実習や個人制作に必要な実践的な技術や思考を習得することを目標とします。これには学内設備や各種装置の演習、プログラミングやワークショップによる問題の発見や解決方法の演習、基礎理論と調査分析のためのデータ収集・分析などが含まれます。このような技術演習を通じて、具体的な研究手法を習得します。また、今日的な問題を発見し、解決する能力を養い、自らが行った研究を学術的論文としてまとめて論述する能力を習得します。

### 講義形態

講義、演習

### 講義計画・項目

- 情報工学
  - プログラミングの導入などの情報処理を主とする工学的な実現方法を学びます。
- ワークショップ・デザイン
  - ワークショップについて理論や体系などを学び、実践する方法を獲得します。実際のワークショップのデザインが最終課題となります。
- 行動分析

- 観察やインタビューにより人々の行動を分析し、洞察へとつなげる定性的な手法を学びます。ニーズや課題の発見、コンセプトが実際に価値を生むかどうかの確認などに活用できる技術です。授業時間外の作業と課題レポートの提出が求められます。
- 統計分析
  - 数値解析などの統計処理の考え方について触れ、実際に検定などの分析手法を学習します。最後に問題を解いて習得を確認します。
- 動画記録
  - 映像記録を制作するための撮影に関する基礎知識を学びます。
- 機材講習
  - 基本的な映像・音響機材を紹介し、使用上の注意点を説明します。
- サウンド・スタジオ
  - サウンド・スタジオの使い方や録音、ミキシングなどを学びます。
- デザイン・スタジオ
  - デザイン・スタジオの大判プリンタ、カッティング・プロッター、裁断機などの使い方を学びます。
- ビジュアル・スタジオ
  - ビジュアル・スタジオの使い方、基礎的なライティング技法などを学びます。
- 木工室
  - 丸鋸、ボール盤、昇降盤などの使い方を学びます。
- 金工室
  - 金属への穴あけ、タッピング、切断、ヤスリ掛けなどを学びます。
- レーザー加工機(イノベーション工房)
  - レーザーにより素材を切断、彫刻する装置の使い方を学びます。
- 3Dモデリング(R-Cafe)
  - 3Dプリンタを使うために、CADの操作を学び、3Dデータの作成方法を習得します。アプリケーションはFusion360を中心に使用します。Rhincerosも利用できます。課題は造形データの作成です。
- 3Dプリンタ(R-Cafe、イノベーション工房)
  - 立体物が作成できる積層式3Dプリンタの使い方を学びます。3Dモデリングを履修し課題のデータを作成するか、または何らかのアプリケーションで課題データの作成ができることが前提となります。

なお、サウンドスタジオ、デザインスタジオ、ビジュアルスタジオ、木工室、金工室、レーザー加工機、3Dプリンタを使用するには、各演習を受けてライセンスを取得する必要があります。

## 教科書・参考書等

テキストは適宜配布します。

## 評価方法

種別	割合	備考
課題	30%	課題への取り組みと内容の評価します。
日常点	70%	出席および授業参加の姿勢を評価します。

# 制作演習A(設計)

## Production Seminar A (Design)

担当:瀬川晃 小林孝浩 平林真実		
単位:2単位	履修対象:1年	教室:W301講義室
学期:前期(6月・7月)	実施方法:対面・オンライン	

### 科目のねらい・特色

設計手法の実践(フィールドリサーチ、課題設定、プロトタイプング、検証)を通じて、デザインによる行動変容や理解の促進を目指します。本演習では、対象フィールドを「自身の生活圏および社会との接点(自宅、路上、公共空間、キャンパスなど)」へと拡張し、私たちが日常的に触れる環境全般を題材とします。その場で起きている現象、個人の微細な違和感、モノと人の関係性を観察し、技術的・心理的アプローチを組み合わせることで介入を試みます。重要なのは、完成度よりもプロセスです。試作や検証を通じて仮説が崩れること、計画が変更されること、失敗が生じることを前提とし、それらを記録・言語化することで、デザインを思考と実践の往復運動として捉える力を養います。

### 到達目標

- 観察やリサーチを通じて、未整理な状況から問いや仮説を立てられる。
- 文献調査に基づいて妥当性のあるデザイン提案を行える。
- プロトタイプを複数回試作し、評価を通じて改良できる。
- プロセスの記録: 試行錯誤の軌跡を論理的にドキュメントとして構成できる。

### 講義形態

- 講義、フィールドリサーチ、ディスカッション

### 講義計画・項目

- 第1・2回: イントロダクション(科目の概要、評価基準の説明)
- 第3・4回: フィールドリサーチ(観察・記録・行動分析/気づきのスケッチと言語化)
- 第5・6回: 課題発見・ディスカッション(観察結果の共有と課題設定)
- 第7・8回: 提案・ディスカッション(デザイン案の提示とフィードバック)
- 第9・10回: 試作・検証(試作の実施と問題点の分析)
- 第11・12・13回: 効果測定(検証とさらなる改良案の提示)
- 第14・15回: 発表・ドキュメント(問いの変遷・判断の根拠・試行錯誤の記録)

## 教科書・参考書等

- 必要に応じ、授業で紹介します。

## 評価方法

種別	割合	備考
課題	50%	課題設定の妥当性、提案の独創性・実現性
日常点	30%	授業中の積極性、他者へのフィードバック
発表・成果物	20%	発表の論理性、成果物の完成度

# 制作演習B(技術)

## Production Seminar B (Technique)

担当: 山田晃嗣・飛谷謙介		
単位: 2単位	履修対象: 1年	教室: C404 ホール
学期: 前期(6月・7月)	実施方法: 対面・オンライン	

### 科目のねらい・特色

我々の普段の生活の中で技術が利便性を与えるようになる一方、それらが深く関与してきており、我々の行動にも影響を与えつつあります。そうした技術の一つを取り上げ、ハンズオン等を通して、その特性を獲得していきます。

この講義では、前半はハンズオンを中心にその技術の内側を学んで課題を一つ提示します。後半は前半に学んだ内容と課題内容から自らアイデアを設定し、各自がその技術を使ったプロトタイプ等を作成します。最後に成果をプレゼンして、その技術の今後も含めて模索していきます。

具体的な課題・技術については、講義の中で説明します。

### 到達目標

- 対象となる技術を知ること、そして演習を通じて自らその技術を扱えるようになること。
- また、その技術が社会へどのような影響があるのか演習などを通じて把握すること。

### 講義形態

#### 講義と演習

### 講義計画・項目

1. 講義の概要とハンズオン1
2. ハンズオン2
  
3. 内容検討
4. 各自の構想について発表(内容についてのQAを含む)

5. 制作等
6. 各自のプロトタイププレゼンテーション

## 教科書・参考書等

なし。

## 評価方法

種別	割合	備考
課題	50%	
日常点	50%	出席状況

# 制作演習C(造形)

## Production Seminar C (Visual Arts)

担当:菅実花・赤羽亨・萩原健一・ジダーノワ アリーナ		
単位:2単位	履修対象:1年	教室:C311 ギャラリー1、 C312ギャラリー2、C313 ギャラリー3
学期:後期(10月/11月)	実施方法:対面	

### 科目のねらい・特色

ヴィジュアル・アーツにカテゴライズされるいくつかの媒体や表現形式を取り上げ、それぞれの特徴を踏まえた上で、それらに潜在する可能性を引き出してどのような表現が可能かを実践的に探求します。

各担当教員による制作事例の紹介の後、各授業で表現形式の制作を行います。それぞれの特徴を実践的に捉え、性質と表現がどのように結びつくことができるかを考察します。最後に4つの課題で制作した作品の中から一つを選び、ブラッシュアップして展示を行います。

### 到達目標

以下のプロセスを経て、それぞれの媒体や表現形式を使いこなす能力の習得を目指します。

- それぞれの媒体・表現形式の特徴を捉える。
- 制約や可能性を踏まえた上でそれらを使う。
- 展示や伝達の過程でどのような働きを持つかを知る。

### 講義形態

講義、制作演習、ディスカッション

### 講義計画・項目

- 10/5(月)1・2限:第1週 [導入]
- 10/13(火)1・2限:第2週 [形式1:記録と出力]
- 10/19(月)1・2限:第3週 [形式2:セルフ・ポートレート]
- 10/30(金)1・2限:第4週 [形式3:鏡(空間・身体・時間のインタラクション)]
- 11/6(金)1・2限:第5週 [形式4:不在の表現]

- 11/17(火)1・2限:第6週 [相談・展示場所決定]
- 11/27(金)1・2限:第7週 [講評]
- 11/30(月)1限:第8週 [リフレクション]

## 教科書・参考書等

必要に応じ、授業で紹介します。

## 評価方法

種別	割合	備考
課題	60%	各回の課題への取り組み
日常点	40%	出席状況(遅刻を含む)

## 制作演習D(展示)

### Production Seminar D (Exhibition)

担当: 赤羽亨・菅実花・萩原健一・ジダーノワ アリーナ・土方大・イトウユウヤ		
単位: 2単位	履修対象: 1年	教室: C404 ホール、C311 ギャラリー1、C312 ギャラリー2、C313 ギャラリー3
学期: 前期	実施方法: 対面	

#### 科目のねらい・特色

展示設営の基礎から実践までを、平面作品、立体作品、インスタレーション作品の3つの形態で総合的に学ぶ集中演習です。実際のギャラリー空間を使った展示設営ワークショップを通して、展示物の取り扱い、設置技術、照明、導線計画、安全管理、撤収に至るまでの一連の実務的なスキルを習得することを目的とします。

#### 到達目標

本授業を通じて、以下のスキルを身につけ、展示設営から撤収・原状回復までの一連の流れを理解し、実践できるようになることを目指します。

- 作品展示に必要な基本道具の使い方を理解し、適切に扱える。
- 平面作品の設置および照明設定を適切に行うことができる。
- 立体作品の設置、空間的な配置を適切に行える。
- インスタレーション作品の設置を適切に行える。
- 撤収後の原状回復を適切に行える。

#### 講義形態

ホールでのレクチャーと、ギャラリーでの演習から構成される、3日間の集中授業として実施します。

#### 講義計画・項目

本授業は1年生のみを履修対象とし、8月26日・27日・28日の3日間(各日1限～5限)に実施。

- 1日目 全体オリエンテーション、インсталレーション基礎、インсталレーション設営実習
- 2日目 インсталレーション設営実習、講評・撤収、平面展示基礎、平面展示設営実習
- 3日目 立体展示基礎、立体展示設営実習、立体展示照明実習、平面・立体展示講評、撤収

※受講の際は、動きやすい服装や靴を推奨。教科書・参考書等

必要に応じて授業で紹介します。

## 評価方法

種別	割合	備考
課題	50%	
日常点	50%	出席状況(※必ず3日間参加すること)

## 制作演習E(展示)

### Production Seminar E (Exhibition)

担当: 赤羽亨・菅実花・萩原健一・ジダーノワ アリーナ・土方大・イトウユウヤ		
単位: 2単位	履修対象: 2年	教室: C404 ホール、C311 ギャラリー1、C312 ギャラ リー2、C313 ギャラリー3
学期: 前期	実施方法: 対面	

#### 科目のねらい・特色

展示設営の基礎から実践までを、平面作品、立体作品、インスタレーション作品の3つの形態で総合的に学ぶ集中演習です。実際のギャラリー空間を使った展示設営ワークショップを通して、展示物の取り扱い、設置技術、照明、導線計画、安全管理、撤収に至るまでの一連の実務的なスキルを習得することを目的とします。

#### 到達目標

本授業を通じて、以下のスキルを身につけ、展示設営から撤収・原状回復までの一連の流れを理解し、実践できるようになることを目指します。

- 作品展示に必要な基本道具の使い方を理解し、適切に扱える。
- 平面作品の設置および照明設定を適切に行うことができる。
- 立体作品の設置、空間的な配置を適切に行える。
- インスタレーション作品の設置を適切に行える。
- 撤収後の原状回復を適切に行うことができる。

#### 講義形態

ホールでのレクチャーと、ギャラリーでの演習とで構成される、3日間の集中授業として実施します。

#### 講義計画・項目

本授業は2年生のみを履修対象とし、8月3日・4日・5日の3日間(各日1限～5限)に実施。

- 1日目 全体オリエンテーション、インスタレーション基礎、インスタレーション設営実習
- 2日目 インスタレーション設営実習、講評・撤収、平面展示基礎、平面展示設営実習

- 3日目 立体展示基礎、立体展示設営実習、立体展示照明実習、平面・立体展示講評、撤回

※受講の際は、動きやすい服装や靴を推奨。

## 教科書・参考書等

必要に応じて授業内で紹介します。

## 評価方法

種別	割合	備考
課題	50%	
日常点	50%	出席状況(※必ず3日間参加すること)